

在宅医療の賢い活用法

—終末期を自宅で過ごすためには—

杉浦医院 院長 森 亮太 先生



当医院では、平成23年(2011年)より八事で地域密着型の在宅医療に取り組んでいます。午前と夕方の診療に加え、その診療の合間に8施設を含む訪問診療を約170件、年間平均看取り33件を行っています。病棟に「特別室」を設けている病院は多いですが、「自宅」こそが、その人にとっての一番の特別室であるはず。人生を終えるとき、家に帰って最期を過ごすために必要なのはその「覚悟」です。そのための覚悟には、①患者さんが家に帰ってほしいことをチームで把握して支える医療者としての覚悟、②必ず家に帰るといふ患者さんの覚悟、③家に帰りたいといふ患者さんを支える家族の覚悟の3つがあります。三者が覚悟して協力すれば、癌の末期であれ、老衰の終末期であれ、どんな状態であっても最期を家で過ごすことは可能です。

そこで、当院での実践をふまえた、地域で多職種が連携して行う在宅医療の工夫と終末期を自宅で過ごすための在宅医療の活用方法について報告いたします。

- ・日時: 2021年7月10日(土) 13:00~15:00 (受付12:30~)
- ・会場: 名古屋市立大学看護学部棟 308講義室
- ・定員: 50人程度(受付期間: 5月17日~6月29日、申込方法 裏面参照)
- ・参加費: 500円(資料代)



申込QRコード

お子様のご同伴はご遠慮下さい。

台風等の災害で中止となる場合は、看護実践研究センターのホームページでお知らせします。

●交通アクセス●

地下鉄 桜通線「桜山」駅下車、3番出口より徒歩約3分

市バス<金山市営バスターミナル>
金山12「妙見町」「金山(桜山経由左回り)」行にて
「市立大学病院」下車
金山14「瑞穂運動場東」行にて
「市立大学病院」下車

●問い合わせ●

名古屋市立大学 看護実践研究センター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
E-mail n.center@med.nagoya-cu.ac.jp
TEL 052-853-8042 FAX 052-853-8042
TEL 052-853-8037 (不在時)

